

平成30年度 三郷市個別予防接種一覧表(A類疾病) ②

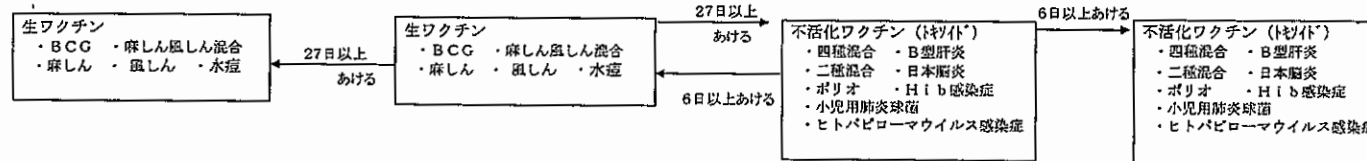
平成30年3月現在

予防接種名		対象年齢 (法律等で定められている接種対象者・回数・間隔等)		接種方法	望ましい接種時期	接種期間	注意事項
不活化ポリオ	1期	生後3か月から7歳6か月に至るまでの間にある者	3回	20日以上の間隔を置いて	皮下	生後3か月～12か月 初回接種(3回)終了後12か月～18か月	●経口生ポリオワクチンを1回接種した者については、初回接種を1回受けたものとみなす。 ●経口生ポリオワクチンを2回接種した者は、定期接種として受けることはできない。 ●平成24年9月1日より前に海外等で不活化ポリオワクチンの接種を受けた者は、医師の判断と保護者の同意に基づき、既に接種した回数分の急性灰白髄炎の初回接種を受けたものとしてみなすことができる。
	追加		1回				
BCG		1歳に至るまでの間にある者	1回		経皮	生後5か月～8か月	●接種後は、よく乾かしてから衣服を着せる。 ●接種後2～3週間て針痕が赤くなり、一部が化膿状になってやがてかさぶたになります。かいたりせず、清潔にする。
麻しん 風しん	1期	1歳から2歳に至るまでの間にある者	1回		皮下	1歳になったら早めに 接種可能な時期になったら早期に	●麻しん、風しんの両方にかかってしまった場合は、接種できない。 ●第2期の対象者は、平成24年4月2日～平成25年4月1日生まれのお子さんです。
	2期	5歳以上7歳未満であって、小学校就学前の1年間にある者	1回	いわゆる年長児			
水痘		生後12か月から生後36か月に至るまでの間にある者(1歳の誕生日の前日から3歳の誕生日の前日まで)	2回	3か月以上、標準的には6か月から12か月になるまでの間隔を置いて2回	皮下	生後12か月～15か月	●既に水痘に罹患したことがある者は接種対象外とする。
日本脳炎	1期	生後6か月から7歳6か月に至るまでの間にある者	2回	6日以上、標準的には28日までの間隔を置いて	皮下	3歳 4歳	●平成21年6月2日に新ワクチン(乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン)が使用開始。 ●特例対象者①(平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれのかたで、平成22年3月31日までに第1期末完了の生後6月から90月または9歳以上13歳未満)にあるかたは、接種可能な期間に注意が必要。 ●特例対象者②(平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの20歳未満)のかたも公費で接種することができる。
			1回	初回接種(2回目)終了後6か月以上、標準的にはおおむね1年の間隔を置いて			
	2期	9歳以上13歳未満の者	1回		9歳		
ヒトパピローマウイルス感染症 (子宮頸がん予防)		12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子 (小学6年生相当から高校1年生相当の女子)	3回	サーバリックス®(2価) 1か月の間隔を置いて2回接種した後、初回1回目の接種から6か月の間隔を置いて1回接種  ガーダシル®(4価) 2か月の間隔を置いて2回行った後、初回1回目の接種から6か月の間隔を置いて1回接種	筋肉	13歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間 (中学1年生相当)	●サーバリックス®(2価)は、左記の方法を取ることが出来ない場合は、1か月以上の間隔を置いて2回接種した後、1回目の接種から5か月以上、かつ2回目の接種から2か「月半以上の間隔を置いて1回行うこと。 ●ガーダシル®(4価)で、左記の方法を取ることが出来ない場合は、1か月以上の間隔を置いて2回行った後、2回目の接種から3か月以上の間隔を置いて1回行うこと。 ●組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチンと組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチンの互換性に関する安全性、免疫原性、有効性に関するデータはないことから、同一のワクチンを使用すること。 ●ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に血管迷走神経反射として失神が現れることがあるので、失神による転倒等を防止するため、注射後の移動の際には、保護者又は医療従事者が付き添うようにし、接種後30分程度、体重を預けられるような場所で座るようにする。

4月1日～3月31日

◎ 接種費用は、上記、各予防接種の対象年齢内、接種期間内、接種間隔内、指定医療機関での実施は公費負担

◎ ワクチンの接種間隔



【三郷市 健康推進課 健康づくり係 ☎930-7771】